

セミナー「ハビタブル惑星への旅」

日時 2018年7月8日 10:00-12:00

開催 大学院総合生存学館 宇宙・地球環境災害研究会

宇宙総合学研究ユニット 宇宙生物学研究会

場所 京都大学東一条館大講義室

太陽系外惑星の中で、ハビタブル惑星、とされているいくつかの惑星があります。その中で地球にもっとも近い「プロキシマ・ケンタウリ b」そして、40 光年ほどの位置にある「トラピスト惑星系」。また地球に似ていると言われる「Kepler 186 f」「Kepler 62 f」そして「Kepler-452 b」などです。また、比較的静かな中心星の周りをまわると言われる「Ross-128 b」、22 光年複数のハビタブル惑星候補がある「グリーゼ 667 C 惑星系」などなど。さて、これらの惑星への「旅」は果たして実現するのでしょうか？実現するとしたら、どのような「技術」で何時頃？現在計画が進められている「ブレークスルー・スターショット計画」なども紹介しながら、これらの惑星への「旅」の実現可能性について考えて見たいと思います。

プログラム

講演予定者

山敷庸亮（総合生存学館教授・宇宙総合学研究ユニット副ユニット長）

寺田昌弘（宇宙総合学研究ユニット 特定准教授（有人宇宙学部門）

他（調整中）

* 2018 年、大学院総合生存学館オープンキャンパスの関連イベントとしての開催予定